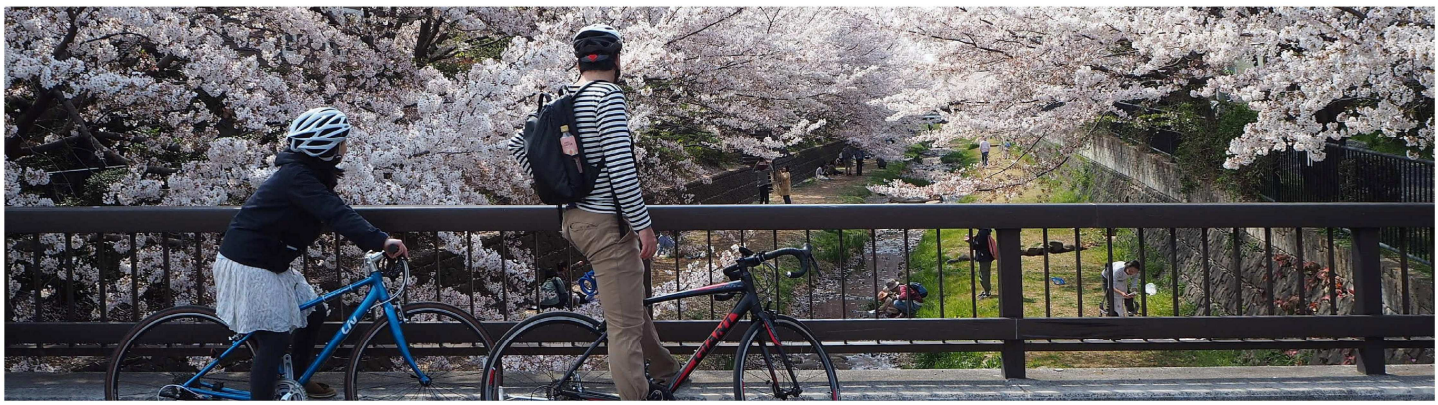
東元町一丁目
自治会だより

No.110
東元町一丁目自治会
発行責任者 石井 一雄
令和 2 年 4 月 1 日



ご挨拶

自治会長 石井 一雄

日頃から自治会活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。新年度のスタートにあたり、ご挨拶申し上げます。

さて、昨年度を振り返りますと、防災訓練・親子夜間パトロールは雨天のため急遽中止となりましたが、その他の事業については予定通り実施することができました。主な活動を紹介いたします。

今年のもちつき大会は、おもちパック引換券制を採用した 4 回目の大会になりました。昨年同様に多くの方に参加していただき、おもち 450 パック(引換券回収 337 枚)を配布することができました。また、自治会が共催している秋祭りや盆踊りに協力するとともに、第一小学校・第二中学校の行事にも参画いたしました。

毎週火曜日に行っている夜間防犯パトロールに対して 10 月に東京都より都民安全推進本部長賞を授与されたこと、また、毎年実施している防災訓練に対して国分寺消防署から感謝状を戴いたことは、既に前号でお知らせした通りです。

従来から街路灯の LED 化を進めていますが、昨年度は 49 本を LED 灯に交換しました。他に、餅つき用の臼の購入、児童遊園砂場の砂の補充、DVD プレーヤーとディスプレーの買替や、平安神社と共同で境内樹木の剪定を実施しました。児童遊園の遊具設置については、令和 2 年度自治総合センター補助金を現在申請中です。

今年度の総会は 5 月 17 日(日)です。多くの皆様に参加していただき、ご意見を賜りたいと存じます。

今年度も引き続き、ご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

もちつき大会

一月十二日、平安神社境内で自治会主催のおもちつき大会が行われました。
毎年、つき手として活躍していただいている永瀬典史さんより、ご感想をいただきました。

新春餅つき大会

第八地区 永瀬 典史

いつのころからだろう？ 年末年始の長い休み明けの憂鬱な気持ちを、「よし！一週間会社に行けば、平安神社で餅つきがあるから、頑張るか…」と押し殺すようになったのは…。それぐらい私にとって、この餅つき大会は、なくてはならない行事となっている。

皆さんは杵と臼を使った餅つきを経験したことがあるだろうか？ 経験のない皆さんは、餅つきは、月のウサギのようにぺったんぺったんと杵でもち米をつくというイメージをお持ちではないだろうか。しかし実はその作業の前に、腰を入れ体重をかけて、蒸しあがったもち米を杵で潰してこねる作業がある。これは杵でついた時に臼からもち米が飛び出してしまうことを防ぐためのものであるが、それと同時にこの作業で、いかに早く、滑らかに米粒を潰すことができるかが、お餅の出来栄えを大きく左右するのである。

しかし、この作業、とにかく重労働。重要な作業にもかかわらず、ビジュアル的にとても地味…。それに餅をつくときみたいに掛け声もかからない…。でも私は毎年毎年、この作業ばかりを担当している。なぜそんな地味な作業に明け暮れているのかと言えば、長老たちのお餅のつき方が格好よくて、腰の入ったその姿と自分の「へっぴり腰」を比較されるくらいなら、地味な作業で目立たないようにしている方が、よっぽど気楽というわけだ。でもいつか自分が爺さんになるころまでに、こっそり長老たちの技を盗んで、格好よく餅をついてやろうと企んでいるのである。とはいえ、やはり何か励みがないと続かない。疲れた体への何よりのご褒美は、神社境内で振舞われる、つきたてのお餅に大根おろしをからめたからみ餅。これをその場でつまめば、もうひと頑張りしようという気持ちになるから不思議である。ぜひ餅つき未経験の方も、このからみ餅目当てに、つき手ならぬ「潰し手」として参加してほしい。

「できれば、ここ数年で参加人数が大幅に減ってしまった子供たちと一緒にお餅をついて、その場でご褒美につきたてのお餅を頬張れるようになると最高なんだけどな…。引き換え券でパック詰めのお餅をもらって家に帰って食べるのもいいけれど、みんなで食べるお餅は格別に美味しいから…。あっ、お汁粉なんかもいいな、つきたてのお餅を入れたら美味しいだろうな…。」などと今も空想してしまう。私の中で、もう来年の餅つき大会は始まっているのである。

いそいでぺったんこ

なかも大忙し

並んで待ってる

未来のつき手